



人と人をつなぐ  
おもてなしの  
こころ

ひろらの  
田舎暮らし体験レポート

写真 | 石川聖太 文 | ホシカワリエコ

二〇一四年からスタートし、今年で三年目を迎える茨城町の農家民泊。ひろら田舎暮らし体験推進協議会が中心となり、学生の田舎暮らし体験や農漁業体験の受け入れを行っています。農家民泊に訪れた学生が、涸沼や各家庭でどのような時間を過ごしているのか、実際に現場に同行し取材させていただきました。受け入れ家庭でのあたたかい交流

農家民泊の初日、茨城町のひろら直売所あいあいオープンングセレモニーを行い、学生と受け入れ家庭のみなさんとの初顔合わせの後、学生は二〜三人ずつに分かれてそれぞれの受け入れ家庭へ向かいました。各家庭ではトイレやお風呂の使い方などをひと通り説明し、三日間のカリキュラムのスタートです。

茨城町に滞在して二日目の夕方。

受け入れ家庭の稲垣夫妻のご自宅にお邪魔させていただくと、学生たちが夕食をつくるのでした。今回宿泊しているのは、茨城大学で日本語を勉強中のモンゴル人のアリマさん、タイのプーケット・ラチャバット大学のボウさん、同じ大学で英語が話せるレイさんの三人。お母さんと一緒にキッチンに立ち、指示に従って仲良くお手伝い。日本語とタイ語と英語が飛び交うにぎやかな空間でカレーづくりがすすみます。

カレーを煮込んでいる間にお母さんから「趣味で着物をリメイクした洋服がたくさんあるので、よかつたら着てみたらどうかしら？」と提案がありました。さっそく二階の部屋でファッションショーが始まりました。

お母さんが三人に似合いそうな衣装を選び、それぞれ着替えが終わったら登場。「かわいい！」「モデルさんみたい」とみんなでワイワイ。カレーの煮込み番をしていたお父さんも楽しそうな声が聞こえたのか、カメラを持って二階へやってきてみんなで記念撮影。衣装を着替えるたびに笑顔でポーズする三人。お父さんとお母さんのやさしいまなざし。今回初めての学生の受け入れとお聞きしていましたが、すっかり打ち解けているお二人のコミュニケーション力に脱帽です。

「ゴク・ザツ・ペイ」って

どんな意味??

みんなでカレーを食べながら「おいしいはタイ語でなんて言うの?」「お父さんとお母さんには子供は何人いるの?」など、お互いに質問しあって楽しくコミュニケーション。すると、突然レイさんが「ゴク・ザツ・ペイ」ってどんな意味?」と聞いてきました。

茨城町で「ゴク・ザツ・ペイ」の意味を知らない人はまづいないと思いますが、いざ英語で説明するとなるとこれがなかなか難しい。方言ということと「ゴク・ザツ・ペイ」のニュアンスを伝えるのにスマートフォンやタブレットを駆使してしつくりくる単語を調べたり...と、とても苦勞をしていました(笑)。



食事が終わると学生たちは明日のお別れセレモニーで飾る黄色いハンカチに、お父さんやお母さんへ贈るメッセージを書き始めました。すでに夜も深い時間になっていたので、取材スタッフは失礼させていただきます、明日の酒沼でのアクティビティとお別れセレモニーに向うことにしました。

### 手づくりイカダと昔ながらの漁業見学

農家民泊の最終日、朝八時半。

前日の大雨が嘘のように太陽が照りつける朝。風もなく静かな湖面の酒沼を眺めながら船着場で待っていると、学生たちがやってきました。今回参加の学生は各受け入れ家庭に宿泊していた男女二十名ほど。今日はこれから酒沼で手づくりのイカダに乗る体験と昔ながらの漁業見学です。

竹でつくられた二艘のイカダに十人ぐらいずつ乗り込み、一人ひとり櫂を使って漕ぎます。タイミングが合わないとなかなか進みません。誰からともなく「ワン、トゥー、スリー」のかけ声。みんなで一体になって神社のある岸まで漕ぎました。

そして昔ながらの漁業見学。今度はエンジン付きの船で三十分ぐらい、強い日差しと爽やかな風を受けながら仕掛けを上げている漁師さんの元へ移動します。漁師さんが網をたぐり寄せて引き上げると、そこには大きな魚が。それを見た学生から「わーっ！」と歓声が上がりました。

### 想いを伝える黄色いハンカチと

#### 「アリガト」の熱いハグ

酒沼でのアクティビティを楽しんだ後はお別れセレモニーです。旧広浦小学校の体育館に集まり、学生と受け入れ家庭のみなさんと一緒に食事の準備。漁で捕った魚をさばってお刺身にしたり、伝統的な花巻寿司づくり体験で、学生がきれいな花模様のお寿司をつくったりしました。

体育館内を見上げるとたくさんの黄色いハンカチが掲げられています。学生たちが心を込めて書いたメッセージです。前日にご自宅にお邪魔させていただいた稲垣夫妻にお話を聞くと、三人は書き始めて数時間、スマートフォンで言葉を調べたりイラストを描いたり…と夜中まで一生懸命書いていたそうです。

お昼ご飯を食べるとあつという間にお別れの時間になり、みんなで記念撮影。たった数日、とても短い時間の中での交流ですが、写真を撮り終えた瞬間に学生がそれぞれの受け入れ家庭のみなさんに歩み寄り「アリガト」とぎゅっとハグをしたり、顔をくしゃくしゃにして号泣するなど、熱い想いがあふれる光景を目の当たりにしました。

茨城町の自然を背景に、言葉や文化、世代の違いを乗り越え、心と心の触れ合いを生み出す農家民泊体験取材を通じて、茨城町の方々の笑顔あふれるおもてなしと心あたたまるコミュニケーションをしっかりと感じる事ができた時間でした。

